

『社会学研究』85号(2009年7月刊)

特集「リスク社会と連帯」

- ・巻頭言「リスク社会化と市民社会」(長谷川公一)
- ・「「リスク社会」下の現代家族—その可視化と社会的条件—」(下夷美幸)
- ・「福祉国家の社会学—グローバル下と個人化—」(武川正吾)
- ・「生活保障をめぐる個別性と集合性の拮抗—リスク社会における連帯の居場所—」(藤村正之)
- ・「リスク社会と連帯—アメリカにおけるローカル公共圏 (Locale Offentlichkeit)—」(前山総一郎)

論説

- ・「職業の社会的地位の認知と地位志向」(塩谷芳也)
- ・「「よそ者」と多文化主義—A・シュッツの「よそ者」論文再考—」(王云)

書評

- ・正村俊之著『グローバル社会と情報的世界観—現代社会の構造変容』(評者 新睦人)
- ・吉原直樹編著『グローバル・ツーリズムの進展と地域コミュニティの変容—バリ島のバンジャールを中心として』(評者 倉沢愛子)
- ・ニクラス・ルーマン著(佐藤勉・村中知子訳)『情熱としての愛—親密さのコード化』(評者 高橋徹)
- ・松井克浩著『中越地震記憶—人の絆と復興への途』(評者 細谷)
- ・海野道郎・片瀬一男著『<失われた時代>の高校生の意識』(評者 横井修一)